

## 研究結果

現在、日本自動車は世界の自動車業界で競争優位を確立し、更に牛耳を執ると言っていた。が、その発展の嚆矢とは、戦前および戦時の経済統制政策に緊密な関連を有し、特に「満州開発」所謂日本帝国主義が強権的に成立せしめた傀儡国家満州国において展開された「産業開発五か年計画」は、日本自動車産業育成に対して不可欠の作業と思われる。

日本自動車産業の育成の歴史を遡ると、戦前の日本帝国主義あるいは日本の対外侵略戦争は大変重要な役割があることは疑うべくもない。「満州開発」という歴史に目を向けると、次の事実があることを解明した。第一、戦前の自動車産業は、特にノモンハン事件と満州事変後、軍部により直接軍需工業として強く認められて、日本の総力戦体制の構築と密接に関連していたということ。第二、当時の日本自動車産業はまだ創生期の段階にあり、量産量販体制による低価格と高い生産技術に裏付けられた高品質のアメリカ車との対抗上、極度の劣勢を強いられていた。こうした状況を打開するため、植民地である満州に日本の国産車を確立することが求められた。第三、『満州産業開発五か年計画』の一環として調査・立案された『自動車工業拡充方策要綱案』に従って、同和自動車工業株式会社と満州製造株式会社の企業活動は、もらった独占権を利用して満州への自動車輸入を行っていた。第四、満州において自動車産業の育成は、究極的目的であった自動車の一貫生産はすでに果たすことができなかったが、KD 輸入や技術導入、一貫生産設備の建設および株式会社の運営を通じてさまざまな経験が積み重ねていた、これは戦後日本自動車の発展の礎になった。

戦後、自動車産業に対して日本政府は「外界と隔絶した市場」を提供しただけでなく、「見える手」で資源の再配置を計るよう企業内の競争環境整備を整えた。これは、戦前「満州開発」の経験に関連していたと思われる

## 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) :

『「満州開発」と日本自動車産業の育成』、張玉来  
南開大学日本研究院学術祭  
2007年10月20日、南開大学日本研究院四階国際会議室

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) :

『「満州開発」と日本自動車産業の育成』、張玉来  
『日本研究論集』(第13集)2008年9月、天津人民出版社

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) :

『トヨタのイノベーションについて  
—及び日本自動車産業の発展モデルの研究—』  
張玉来、天津人民出版社 2007年2月  
この本の第一章『日本自動車産業の発展とイノベーション』